第2回　ひろしま自治・まちづくりフォーラム

～参加型まちづくりに、市民、公務員、研究者が果たす役割とは～

8月17日（土）・18日（日）開催

昨年度、広島で開催された”自治体学会広島大会”を準備するために集った広島の市民、公務員、研究者達が、その活動を継続するために”広島自治体学会”を設立し、フォーラムを開催します。１日目に開催する研究発表会では、参加型まちづくりに、市民、公務員、研究者がそれぞれが果たす役割について、様々な切口から検討した結果を発表し、２日目はエクスカーションを開催します。このフォーラムが、広島の自治やまちづくりに取組む仲間の交流の機会となり、地域の課題解決や自治力の向上につながり、地域の活性化に繋がることを期待して、皆さんの参加をお待ちしています。

定員 100名

平成２５年８月１７日（土）　１４：００～１７：４０

■　**研究発表会プログラム（概要は裏面）**

14:10－15:10　基調講演「参加型まちづくりと専門家の役割」 西村 幸夫さん（自治体学会代表運営員）
休憩（１０分）
15:20－15:40　発表１　「島根自治体学会の活動紹介」 長岡 智子さん（島根県職員）
15:40－16:00　発表２　「東広島市における住民自治」篠原 裕次郎さん（東広島市職員）
16:00－16:20　発表３　「日英における地域政治参画の在り方」 佐々木 大樹さん（ロンドン大学経済政治学院）
休憩（１０分）
16:30－16:50　発表４　「自治体における弁護士の活用の現状及び今後の方向性について」菊永 将浩さん（福山市職員）
16:50－17:10　発表５　「自治体職員のまちづくり参加について」杉原 達也さん（三次市職員）
17:10－17:30　発表６　「公務員の地域活動やNPO活動を後押しする仕組み」茂田 幸嗣さん（広島県職員）

■　会場　　広島市中区サテライトキャンパス ひろしま ５０２大会議室（〒730-0051広島市中区大手町１丁目５－３）
■　参加費　無料
■　情報交換会　時間：　１８：００～　　場所：　竹取御殿紙屋町店（広島市中区紙屋町２-3-20　アーバンBLD 3F）、
参加費：　3,５００円（定員３０名）

平成２５年８月１８日（日）　８：４５～１６：００

■　**エクスカーション概要**

安佐北区可部で展開されている『やさしさのまちづくり』と、その延長線上で展開される、日本初のＪＲ線復活への取り組み『ふたたび線プロジェクト』の現地を体感する（**概要は裏面**）。

■　集合　８：４５広島駅新幹線口（解散は１６時に同所にて）
■　参加費　4,５００円程度（昼食込み。定員２６名）
* 最小催行人員に達しない場合は中止します。

申込み方法（研究発表会・懇親会・エクスカーション）
URL: http://kokucheese.com/event/index/103026/
次のＵＲＬ又はＱＲコードよりお申し込みください。
* 申込みができない場合等は、次のメールアドレスまでご連絡ください。
mail: H24JHJ@yahoogroups.jp

主催　広島自治体学会　http://jghiroshima.blog.fc2.com/
後援　自治体学会　http://www.jigaku.org/

研究発表会・エクスカーション概要

研究発表会概要 ［平成２５年８月１７日（土） １４：００～１７：４０］

基調講演「参加型まちづくりと専門家の役割」
西村幸夫さん（自治体学会代表運営員・東京大学先端科学技術研究センター所長）

まちづくりとは合意形成に至るための計画技術であるといえる。そこで諒解に至る技法とは何か、そこにおける専門家の役割とは何かを考えてみたい。とりわけ物的計画における現状理解のあり方を探る。事例として、広島市都心部を取り上げ、具体的なまち理解の深化の手法を考える。

発表１ 「島根自治体学会の活動紹介」 長岡 智子さん（島根県職員）

島根自治体学会が設立されたのは 1986 年、自治体学会の設立から数か月後のことである。当時事務局が県企画部の中に置かれ、島根県職員が中心となって活動を支えてきた。私が自治体学会と関わりを持つようになったのは県庁入庁後の 1994 年、一時期活動が下火になった後、同年に島根県で自治体学会が開催され活動がまた盛り上がった時期だった。活動再燃の火付け役であり現在も島根自治体学会の中心人物である「三人組」との出会い、島根自治体学会の活動の中で自分が考え、自分なりに行動してきたこと、最近の活動として西尾勝先生のリレー講座を開催した経緯などを紹介しながら、自治体学会の活用のしかたについて考えたい。

発表２ 「東広島市における住民自治」～市民協働のまちづくり行動計画と住民自治協議会の取り組み～ 篠原 裕次郎さん（東広島市職員）

地域活動の衰退、コミュニティの希薄化、ニーズの多様化、協働意識の高まりなどを受け、東広島市では市民協働のまちづくりを推進しています。その重点事業として、小学校区単位で住民自治を行う「住民自治協議会」の設立・運営を支援してきました。各地域の住民自治協議会では、住民が主体となって取り組む住民自治ならではの様々な事業を行なっており、今回その特徴的な取り組みをいくつかご紹介いたします。

発表３ 「日英における地域政治参画の在り方」 佐々木 大樹さん（ロンドン大学経済政治学院）

日本の高校を経てイギリスのカレッジに留学する中で、日英の地域政治に対する参画意識の大きな違いに驚きました。私自身は日本にいる時、COP10 国際ユース会議に参加するなど、政治や社会について強い関心を持っていました。しかし日本の高校に在学していた時はなかなか周囲に、そうしたことについて語れる場がなく、また市民として必要な教養すなわち″ citizenship″ に関心がわきにくい教育環境でした。これからの日本社会を考える上で、若者の地域自治、地域政治への参画は重要だと思います。イギリスで政治学と社会学を学ぶ中で得た知識と経験から、地方自治の明日を切り開くヒントを考えていきたいと思います。

発表４ 「自治体における弁護士の活用の現状及び今後の方向性について」 菊永 将浩さん（福山市職員）

これまで国家公務員、地方公務員として勤務していた経験が長いことから、自らの弁護士資格を行政の中で活かしていきたいと思っていたところ、この４月から広島県内で唯一の行政の組織内弁護士として、福山市役所に採用された。これまで地方自治体の中で働く弁護士は少なかったが、近年急激に増加してきており、７月９日現在では全国で６１名となっている。そして、現時点における弁護士の活用状況については、私のように総務課に配属される人、債権管理等のする人など自治体ごとに様々である。そこで、地方自治体における弁護士の活用状況についての全体像を説明するとともに、今後の自治体の組織内弁護士の在り方などについて述べる。

発表５ 「自治体職員のまちづくり参加について」 杉原 達也さん（三次市職員）

自治体職員が地域に出て、まちづくり活動に参加するべきだと、かなり前から言われてきた。実際に住民自治組織やＮＰＯの運営に関わっている職員が確かに存在する。しかし、そうした職員が増えている実感はない。また、自分自身は意識的に地域活動に参加し、地域の中で一定の評価を受けているという自負もあるが、地域の中で職員ができることの限界、行き詰まりも感じている。自治体職員のまちづくり参加について、いろいろな問題点を整理し、自分自身の経験を踏まえて発表する。

発表６ 「公務員の地域活動や NPO 活動を後押しする仕組み」 茂田 幸嗣さん（広島県職員）

公務員が自分の時間を活用して一地域住民として、職場や家庭における役割に加え、地域活動や NPO の活動に参画することは、地域住民と思いを共有し、ひいては現場の住民目線で行政を推進することにつながりますこのことは、公務員のミッションを再確認し、行政のあり方を住民本位に変えていくために有効であり、行政と住民の間の新たなパートナーシップを構築していくために重要です。地域活動や NPO 活動に取り組む公務員の活動を活性化するための取り組み等を紹介します。

エクスカーション概要 ［平成２５年８月１８日（日） ８：４５～１６：００］

■概要 安佐北区可部で展開されている『やさしさのまちづくり』と、その延長線上で展開される、日本初のＪＲ線復活への取り組み『ふたたび線プロジェクト』の現地を体感する。案内人は、まちづくり市民グループ「可部カラスの会」（総務・国土交通大臣表彰等受賞団体）寺本事務局長

■行程（内容は変更となる場合があります。）
広島駅新幹線口 8:45 集合・受付 ⇒ 9:00 バスで現地へ出発（車内で取組概要説明）⇒ 10:00 復活路線付近にて取組説明 ⇒ 複数の活動現場を視察 ⇒ ＮＰＯ法人かべ工房村（地域密着型高齢者支援施設）視察 ⇒ 12:00 ＮＰＯ法人ウイング可部（地域密着型障害者支援施設。昼食と屋台村、もてなし隊等の説明） ⇒ 13:30 まちなみ散策（つくり酒屋等）⇒ 14:00 ガラスの里へ移動 ⇒ 14:20 ガラスの里観光（１時間滞在）⇒ 16:00 広島駅帰着

＊この企画は広島自治体学会のパートナー団体である「地域に飛び出す広島県職員ネットワーク（トビケン）」によるものです。